

人と自然と文化にやさしい地域づくり

# 山口県教育

*Education of the Yamaguchi prefecture*

明日を拓く—成果を検証する—

5

令和2年 No.1299



## ■提言【市の持ち味を生かす・創る】

### ■コラム

岩国市教育委員会 教育長 守山 敏晴  
山口大学

大学研究推進機構 知的財産センター  
教授(特命) 久保田 裕

### ■支部の取組

防府支部 事務局長 三輪 知志

### ■コーディネーターのお仕事

下松市立花岡小学校 コミュニティ・スクール(OS)

コーディネーター 有田美栄子

菊川コミュニティ・スクール運営協議会

コーディネーター 國弘由美子

### ■やまぐち見てある記

きらら浜自然観察公園

### ■ご案内

令和元年度 第72回山口県学校美術展 推奨作品  
[見て見て牛の赤ちゃんお母さんのおっぱい飲んでるよ]  
久賀保育園 年少(受賞時) 児玉 日向太

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長:倉増誠彦/編集長:西岡 尚

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- あいさつ返事で明るいやまぐち
- 笑顔でつなぐ安心やまぐち
- ゴミ落書きのない美しいやまぐち

# 提言【市の持ち味を生かす・創る】

## 自律した子どもの育成



岩国市教育委員会

教育長 守山 敏晴

昨今の急速なグローバル化や情報化の進展に伴い、子どもたちがおかれている現状は変化が激しく、先が見通せないものになってきてています。そういった時代に対応できるよう、さまざまな考え方を持つた人と関わり合い、お互いを認め合いながら仲間と協力して問題を解決する「自律した子どもの育成」が求められています。

そのために岩国市では、コミュニケーション・スクールと地域協育ネットをリンクさせた「小中一貫教育の推進」や「英語教育の推進」などを通じて、主体的に学習する児童生徒の育成に努めています。

### 進む小中一貫教育

「小中一貫教育の推進」は試行期間を経て、令和二年四月から各中学校区で本格実施となりました。現在、市内の十四中学校区において、地域の実情に応じた小中一貫教育が行えるよう、「目標」「カリキュラム」「子供の心」「教職員の意識」「家庭・地域との絆」という五つのつながりを構築しながら進めています。

昨年度は、文部科学省・県教委・市教委の研究指定校により、従来の小中単体から小中合同での取組が進み、推進校として、多くの中学校区が指定を受けたことに

学校運営協議会や地域の方々とも連携していただき、多彩な取組を研究発表会で発表することができました。表彰は、どの学校でも社会とのつながりを重視した「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学

### 英語教育と岩国市

「英語教育の推進」という観点では、本市は国際色豊かな町であり、グローバル化する国際社会において主導的な立場を確立するため、英語を活用する機会を増やしてきました。また、昨年九月から各中学校に「国際交流支援員」を配置し、日常的に中学生が英語を活用する機会を設けたり、地域の方の英会話教室を開催したりできるような環境を整えました。生きた英語の習得は外国人とのコミュニケーションの手段として欠かせないものであります。さらに、

それは自國や他国の文化について理解することにつながり、豊かな国際感覚や人権感覚を育んでいきます。このように「英語による交流のまちづくり」を進めることは、岩国市の大好きな魅力となるのではないかと思っています。

これらの教育の基盤となるのは、児童生徒が互いの声に耳を傾けながら、認め合える学級づくりだと考えています。仲間の発言を茶化したり、無視したりするようなことなく、安心して自由に気づきや思いを交流できる雰囲気の中で、自分の考えが認められることは、子どもの自信につながるのではないかでしょうか。



大人と子どものディスカッション



イングリッシュキャンプ

これからも、岩国市は、各校の教育活動が地域の特性を生かしながら、さらに充実したものとなるよう支援し、児童生徒の多様性や創造性を高め、「自律した子どもの育成」に努めていく所存です。

# 著作権教育から情報教育へ



山口大学

大学研究推進機構 知的財産センター

教授（特命）久保田 裕

（一社）コンピュータソフトウェア著作権協会 専務理事

私は二〇一三年から山口大学の教員として知的財産権・著作権教育に携わっている。また、山口新聞では昨年六月二十六日から十回に渡り、「超情報社会の著作権」というコラムを執筆中である。

## 山口との縁

山口県とのご縁について少し触ると、亡き父が長府の出身で、旧制豊浦中学、山口高校の出身ということがある。以前、山口大学の教え子が山口高校生徒会長であったことから、高校訪問させていただいた。昔のままの講堂が残されており、高校生たちが活発にブラスバンドの練習をしていた。入口に立つた時、父の学生時代の写真が浮かんだ。セピア色。井伏鱒二や滝廉太郎が掛けていたような丸い眼鏡。襟無しのシャツ。「克己心」という言葉とともに胸が熱くなつた。

グランドに目を向けると、ラグビー部が声を掛け合ひながら、バスを回している。県立ながら花園組。私も高校時代からラグビーを始め、現在は練馬区で少年ラグビーの世話をしている。このコラムを書くきっかけは、中央大学くるみラグビーカラーブの先輩であり、山口県内で校長職を歴任した竹内幹男氏の紹介だ。先日、約四十年ぶりに再会し、歴史ある松田屋ホテルで食べきれないほどの河豚をご馳走になつた。ヒレ酒も

美味かつた。心から感謝している。

ラグビーは最も「フェア」を尊び、規律を学ぶことに適したスポーツだ。「ノーサイド」も教育的。法教育にも通じ、大学ではスポーツ情報倫理学として話すこともある。スポーツの競技規則を土台に、何故、法律があり、ルールを守らなければならないかを「プレイヤーとして、レフリートとして、コーチとして、立場を変えて考えてみる。

## 多様な著作物に触れ、眞の著作権マインドを養う

ICTをフル活用する超情報社会では、著作権教育だけでなく、情報教育によって情報リテラシー、情報モラルを身につけるべきであり、時代のキヤッチとしては「著作権教育から情報教育」なのである。

著作権の知識は学校での活動から日常生活、そして、将来の業務で必要であることから、当然身につけるべきだが、細かい条文を学ぶ必要はない。普段交通ルールを守つて行動しているが、運転免許を持つている人

を含めて道路交通法の条文を読んで勉強する人はいないよう。著作権も同様。著作権の基本的なルールを理解して「著作権マインド」を身につければ、学校でも家庭でも大きな失敗を犯すことはない。

では著作権マインドを身につけるためにはどうすれ

ば良いだろうか。私は、「なぜ著作権というルールで表現物（著作物）は守られるべきなのだろう」という著作権の本質、根本に言及し、学ぶことこそ一見遠回りだが近道だと考えている。つまり、絵画、小説、映画、ソフトウェア、音楽などの様々な著作権で保護される作品（創作物）について興味を持ち、創作者や創作者の苦しみ、喜び、素晴らしさに思いを馳せること。その結果、創作物への尊重につながり、さらに自ら創作物を生み出す契機にもなる。さらに、ジワジワと「人生は短く、芸術は長く、深い」ことにも気づく。

先生方には、是非、豊かで多様な著作物を活用したICT教育を積極的に推進していただきたい。多様な著作物に触ることは新たな創作の源泉となるだろう。先生方には、是非、豊かで多様な著作物を活用したICT教育を積極的に推進していただきたい。多様な

著作物に触ることは新たな創作の源泉となるだろう。先生方には、是非、豊かで多様な著作物を活用したICT教育を積極的に推進していただきたい。多様な著作物に触ることは新たな創作の源泉となるだろう。先生方には、是非、豊かで多様な著作物を活用したICT教育を積極的に推進していただきたい。多様な

## 情報モラル・ルール作りで情報教育を

最後に、情報教育活動において、最も注意すべきは情報機器やネットサービスの使い方に偏つたいわゆる「コンピュータ教育」にとどまらないこと。コミュニケーション、メディアの機能を理解しつつ「情報」の意味や価値に視座をおいた教育こそ肝要である。対象を情報に広げてしまうと、学ぶべき事項も飛躍的に増えてしまうが、著作権教育同様、授業でのテーマに合わせて情報を適切に扱うマインドを育てて欲しい。

私は、この観点から「情報モラル・ルール十箇条」づくりを提唱しているが、校長先生をはじめ教員が率先して十箇条作りに挑戦してもらいたい。

※なお、著作権教育と情報教育に関しては、今年一月にNHK「視点・論点」に出演し解説した。NHK解説委員室の解説アーカイブスに内容が掲載されているので是非ご覧いただきたい。

# 支部の取組（防府支部）

## 「繋げよう地域と学校・伝えよう故郷」

### 人・歴史・故郷との繋がりを深める防府支部活動の実際



#### 防府支部の紹介

防府市は天神様のお膝元、江戸時代の初めには右田地区に「時觀園」、華浦地区に「越氏塾」が開かれるなど古くから教育に熱心な土地柄です。支部の会員数は約千名です。

県本部のモデル事業を右田地区・華城地区が実施したり、市内各地域で子どもとOBが深く結びついた活動を開催したりしています。

防府支部活動の実際を四点に絞ってお話したいと思います。

#### 防府支部の主な活動の実際

##### ◆人・歴史・故郷との繋がりを深める活動

###### ①事業部が企画・運営する支部三大事業

- 「郷土の偉人・文人に学ぶ会」

故郷にゆかりのある人物に焦点を当て、その人の業績や生き方を学ぶことにより、自らの生活をより豊かなものにしたいとの願いからスタートした事業です。この事業を開催することにより次世代への



郷土の偉人・文化に学ぶ会の様子

14回の中でとりあげた人物・演題（敬称略）

回	演題	講師
1	瀧鶴台とその妻竹女	河村 太一
2	塩田の救世主 田中藤六	重枝 慎三
3	上田堂山とその一族	宮原 尚美
4	山県周南の生涯	荻原 旭
5	偉大なる「そうせい公」毛利敬親公	小山 良昌
6	防府の偉人 美術史家 脇本栄之軒	山本 綾香
7	富海の飛船	出穂 稔朗
8	大楽源太郎の生死	内田 伸
9	幕末期における富海の躍動	出穂 稔朗
10	重源上人と阿弥陀寺	林 寛孝
11	防府の先人「上山満之進」研究の現代的意義	兒玉 譲
12	山頭火の秀句とその背景	高張 優子
13	長州藩の人材育成と明治維新	小山 良昌
14	野村望東尼の生き方に学ぶ	岡本早智子

防府支部  
事務局長 三輪知志

- 一 支部活動の活性化に向け、広く市民有志・教育関係諸団体との連携を深め、新しい時代に即応した教育の創造に努める。
- 二 地区活動の一層の充実に向け、活動の活性化を支援し、その交流を通して参加者の増加と若年層への理解・啓発に努める。
- 三 支部専門委員会を一層活発にし、会の組織的・機能的な運営に努める。

#### ③総務部による支部活動の点検・評価

総務部では、年間三回～五回程度の会合を開き、支部活動の点検評価を行っています。近年のテーマは会員の高齢化、会員の減少、安定的な支部役員の確保などです。これからも課題解決に向けた話し合いを続けています。

#### ④学校等の教育活動助成事業

会員の会費を財源とした支部の年間予算。その中で、教職員研修・放課後こども教室の活動・留守家庭児童学級の活動・地域の伝統的な研修活動など、学校と地域の繋がりを深めるために計画的な助成を行っています。

私たちの支援の先に子どもたちの笑顔が見えるようとの願いで、本年度は、二つのモデル地区、三つの研修団体、十九の学校・地域、二つの生徒指導の充実を目指す学校への助成を行いました。

#### 防府支部の現状と課題

学校現場ではたくさんの先生が会員となり支部活動を支えていたたいています。一方で退職された後、再び会員として運営を支えてくださる方が年々少なくなっているのも事実です。これからも支部活動の活性化を図り、子どもたちの輝く未来が開かれることを願いながら結びとします。

支部活動を広く会員に知らせるため、年三四回情報紙

を発行しています。情報紙は、各地区の地区委員会員宅に直接届けています。そうすることで会員同士の横の繋がりを保つ事にも役立つていると考えています。

## 第40回 松陰に親しむ会

令和元年7月27日（土）  
東行記念館と小倉口の戦い古戦場あとを訪ねる

20名の参加者を得て、日本人にとって史上最大の政治改革、明治維新の原動力となった吉田松陰の業績を偲ぶことにより、教育の原点を再確認するとともに、郷土の歴史的遺産に触れる生涯学習実践の場としました。

## 【行程】

出発 8:15	9:30 ～11:30	昼食 11:50 ～12:50	13:30 ～15:00	買い物 15:20 ～16:20	到着 17:30
防府市役所	東行記念館 講話による	カエモンワーフ で海の幸を一つ	周辺小倉口の散策「赤戦い」 イアボランティアの案内	貢自門 由散策とお口	防府市役所

小倉口の戦いで亡くなった長州藩士を手厚く葬った墓、維新の原動力として亡き松陰の後、松陰の志を継いた高杉晋作の足跡を現地の観光ボランティアや研究員から直接説明を受けることができ、たいへん興味深かったです。さらに戊辰戦争の様子、長州藩との死闘・会津戦争などについても講話を受け、新しい時代の到来に数多くの困難があつたことも学習できました。これらの時代があつて今あることに感謝するばかりです。

教育振興フォーラム  
(佐波支部・防府支部共催)

## 【主なプログラム】

- アトラクション（※当日は事情により割愛）
  - 防府市立桑山中学校生徒発表
  - 吹奏楽部演奏
- 実践発表
  - ① 佐波支部 山田文雄先生  
「ふるさとの歴史に向き合って」  
－徳地の騎兵隊－
  - ② 防府支部 掲示発表
    - ・松陰に親しむ会
    - ・松陰の道歩行大会
    - ・防府の偉人、文人に学ぶ会
    - ・地域・学校への助成事業の実際と活動の様子」
- 講演
  - 演題 「能と能面について」  
講師 能面師 松田 龍仁 様

明日を拓く 一繋げよう地域と学校・伝えようふるさと—  
令和元年12月7日（土） 防府市立桑山中学校 参加者75名

「人と自然と文化の共生共存を目指した諸活動」の在り方と「人と人、自然とのふれあい、伝統・文化の継承」を重視した事業展開の在り方の2つの提案をしました。



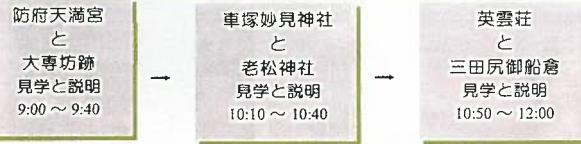
山口県教育会と学校との連携の在り方について、様々な角度から提案できたことは意義深いことと捉え、一定の成果が得られたと考えています。

会員の減少という課題を解決するために、フォーラムや支部だより等の活用により、教育会の意義や理解を啓発することが一層求められていると感じています。

## 第28回 松陰の道歩行大会



## 【行程】「防府天満宮」から「英雲荘」までのおよそ4km



参加者20名は、行程に点在する歴史遺産を防府市文化財課専門員の指導の下で楽しく学ぶことができた。当時の山陽道、萩往還道の役割や宮市宿の人々の生活に思いを馳せるまたとない機会となつた。ふるさと防府の歩みを未来を託す人たちに引き継いでいくことは教育会の大切な役割だと考えている。

# コーディネーターのお仕事



## 一番の喜びは子どもたちや地域の人の笑顔

下松市立花岡小学校

コーディネーター・スクール（CS）

有田 美栄子

本校のある花岡地区は自然と歴史に彩られた旧山陽道の門前宿場町で、歴史的・文化的な地域資産がたくさんあるところです。新しい住宅地もどんどん増えていますが、日頃から地域の方は子どもたちのことをあたたかく見守つてくださっています。花岡小ではCSコーディネーターとして地域の方に向けた情報発信を中心に行っています。子どもたちが地域に出かけてどんな学習をしているのか、またはお招きした地域の方が子どもたちにどんなことを教えてくださっているのか取材し、ホームページや便りで積極的に発信しています。また、協力してくださる地域の方とは限られた時間でできるだけたくさんのことができるようにと事前の連絡や相談をします。その回数が多くなることがあり、打ち合わせの時間確保が難しいことが課題です。



子どもメッセージと折り紙を手に  
楽しく語り合うお年寄りのみなさん

に彩られた旧山陽道の門前宿場町で、歴史的・文化的な地域資産がたくさんあるところです。新しい住宅地もどんどん増えていますが、日頃から地域の方は子どもたちのことをあたたかく見守つてくださっています。花岡小ではCSコーディネーターとして地域の方に向けた情報発信を中心に行っています。子どもたちが地域に出かけてどんな学習をしているのか、またはお招きした地域の方が子どもたちにどんなことを教えてくださっているのか取材し、ホームページや便りで積極的に発信しています。また、協力してくださる地域の方とは限られた時間でできるだけたくさんのことができるようにと事前の連絡や相談をします。その回数が多くなることがあり、打ち合わせの時間確保が難しいことが課題です。

ですが、毎回とても喜んでいただいているようです。家に飾つていただいている方もいらっしゃると話を聞きました。うれしい限りです。

毎回様々な取材をしながら、子どもたちが楽しそうに活動している様子が見えるときと、地域の人から「またぜひ協力させてもらいたい」「一緒に活動していく楽しみかっただ」というお言葉を聞くときが一番の喜びです。

これからも家庭や地域、学校が協力して子どもたちのよりよい成長を支えていくよう、私もその取組や活動に参加していきたいです。

昨年夏には、これらの団体に、小中学校の先生方や児童・生徒のほか、田部高等学校の生徒の参加も得て、総勢百三十三名で、「『学びの町菊川』を実現するために…私たちに何ができるか」学校・家庭・地域の連携によるてだて」というテーマで、熟議を行いました。「ノーメディアウイーク」や「菊川読書の日」などの目標指針と「大人も子供も一緒にね!」というスローガンを成果として共有でき、地域全体にふれあいや思いやりが生まれました。

今まで地域の人と子どもたちのつながりはありましたか、新たな取組として、社会福祉協議会が行っている独居老人を対象とした会食サービスのお弁当に折り紙とメッセージを届け始めました。子どもたちも日頃お世話になっている地域の人に何かできな

いだろうかと考えていたので橋渡しをさせていただきました。年四回あります



## ある先生の言葉・「上品なお節介」がもたらす未来の宝物作り

菊川ミニティ・スクール運営協議会

コーディネーター・国弘 山美子

下関市菊川町、人口八千人、「小日本」の愛称がある町です。

子どもたちは成功や喜びと失敗や挫折を繰り返しながらどんどん成長します。子どもたちはチャレンジャーだとということを忘れてはいけません。

このチャレンジの過程で愛情たっぷりに上品なお節介、温かい励ましがでいる地域作りの架け橋がまさに「コーディネーター」のお役だと思っています。

そして、立場や年齢を超えて認め合える様々な経験が、将来ふるさと日本菊川を愛する気持ちを育てるのだと確信しています。故郷を思う子どもたちが作り上げ伝承していく「コミュニケーションネットワーク共生」が未だに上品なお節介のネットワークをどうやって上品なお節介のネットワークをどんどん増やしていくべき、「共生」だけではなく、「共生共創」の町作りができると思います。その中で、互いの相違を認め合う、明るい町になれるのではないか



子どもの育ちで盛り上がった「熟議」

## きらら浜自然観察公園

山口市阿知須の広大な干拓地に広がる山口きらら博記念公園で、ときわ目立つドーム型室内運動場（通称「きららドーム」と水泳プール。その北東側の山口湾沿いに、これまた広大な土地を有する「きらら浜自然観察公園」があります。山口市小郡から阿知須に向かう県道二一二号には、道路表示で示されていますが、あまりに広大すぎて、どこからが自然公園なのか見分けがつきにくく、不安を抱いてしまうくらいです。

一九六四年に国営干拓事業として阿知須干拓地が完成したのち、長い間土地利用がなく、そのままの間に水辺の野鳥の楽園となっていました。その後、土地の有効利用のために埋め立てが行われ、北側の三〇ヘクタールが「山口県きらら浜自然観察公園」として整備され、二〇〇一年四月にオープンしました。

ここ「きらら浜自然観察公園」とこれに隣接する山口湾一帯は、中国大陸や朝鮮半島にも近く、ロシア東北部やカムチャツカ半島から日本列島を縦断して東南アジアへ渡る鳥たち、朝鮮半島を経由して日本にやつてくる鳥たちの交差点に位置しており、多くの野鳥が訪れるため、その種類は実に約二三〇ものぼるそうです。



対岸から臨むビジターセンター



館内のフィールド・スコープ



ビジターセンター入口

ペント等のお知らせも掲示してあります。以前、「山口県教育会山口支部の会員であり、先生の竹細工の展示コーナーが設置してありました。そして、何より驚いたのは、施設から正面の広大な池を臨む弓形の窓辺に並ぶフィールド・スコープ（望遠鏡）の数でした。多くの来館者が同時に、また、いろいろな方向の水面に浮かぶ多種類のカモ、水辺で遊ぶシギの類などの愛らしい動きやしぐさを、手に取

べており、ここで車を降り、公園内を表示にそつてしばらく歩くと、ビジターセンターのエントランスが見えます。ビジターセンター内には、野鳥や野鳥観察に関する情報はもとより、きらら浜に生息する水生生物の展示やたくさん行われているイベント等のお知らせも掲示してあります。筆者が訪問した日には、「山口県教育会山口支部の会員であり、

以前、「山口県教育会山口支部の会員であり、先生の竹細工の展示コーナーが設置してありました。そして、何より驚いたのは、施設から正面の広大な池を臨む弓形の窓辺に並ぶフィールド・スコープ（望遠鏡）の数でした。多くの来館者が同時に、また、いろいろな方向の水面に浮かぶ多種類のカモ、水辺で遊ぶシギの類などの愛らしい動きやしぐさを、手に取

るよう、観察し楽しむことができ、関心が薄い者でも水鳥の観察に時の経つを忘れてしまいます。広大な公園内には、野鳥の生態ごとに大きく分けて、干潟、淡水池、汽水池、樹林地、ヨシ原の五つのエリアがあります。筆者もすべてのエリアを散策してみました。ゆっくり観察し、楽しみながら歩くと一時間や二時間はあつという間に経ってしまいます。文明の音のしない静寂な空気の中で、それぞれのエリアの環境に合った鳥たちの、さえずりや羽音、水や植物を揺らす音に感動し、心癒やされながら散策を楽しむことができました。

ヨシ原の枯れたヨシの上を低空で飛ぶアオサギに、樹林地では、たくさんのメジロに出会い、思わずカメラのシャッターを押しました。写真に関してさほど詳しくはない筆者でさえ、簡単に野鳥を写真に収めることができることから、その豊かさがわかるのではないかでしょうか。

「日常は、年間約一万二千人の来館者のお世話をしたり、かなりの頻度でイベントを開催したり、また、時には出前授業に出向いたりする中、少ないスタッフでこの広大な観察公園の自然環境を維持するのはたいへん、苦労も多いのですが、来館者やこの公園に訪れた方が、野鳥を見て笑顔になってくれること、喜んでいただけることが私たちにとって何よりの喜びです」とレンジャーの渡邊徹氏は話してくださいました。

季節のいい時に、健康づくりを兼ねて自然観察公園を歩いてみたことは間違いない。やされることがないなしです。



思わずシャッター (アオサギ)



思わずシャッター (メジロ)



住所：〒754-1277 山口市阿知須509-53  
TEL 0836-66-2030 FAX 0836-66-2031

開園時間：午前9:00～午後5:00

休園日：月曜日（休日の場合は翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）

ビジターセンター入館料：200円

（18歳以下無料 20名以上の団体は1名160円）

URL: <http://kirara-h.com/>

# 第11回 青年教師の集い

- 1 趣 旨 教育維新の強い思いをもつ小・中学校の青年教師が集い、授業実践及び授業構想を検討し合うことをとおして、「明日を拓く豊かな授業」を構築する。
- 2 主 催 (一財)山口県教育会
- 3 期 日 令和2年8月6日(木)・7日(金) 1泊2日
- 4 会 場 パルトピアやまぐち
- 5 研修教科 小・中学校国語科  
テーマ：国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てる国語科指導  
－豊かな言語活動を通して－
- 6 参 加 者 小学校教諭6人程度 中学校教諭6人程度 計12人程度
- 7 参加経費 交通費、宿泊費等の必要経費はすべて主催者が負担する。
- 8 研修日程
- | 時刻    | 研修内容 (8月6日)                  | 会 場                   | 時刻    | 研修内容 (8月7日)                      | 会 場                   |
|-------|------------------------------|-----------------------|-------|----------------------------------|-----------------------|
| 9:30  | 開会行事                         | パルトピア<br>やまぐち<br>中ホール | 9:00  | 【小学校と中学校の2部会に分かれる】<br>模擬授業の指導案作成 | パルトピア<br>やまぐち<br>中ホール |
| 10:00 | 【小・中混合の2グループに分かれる】<br>実践例の発表 |                       | 10:30 | 模擬授業                             |                       |
| 12:00 | 昼食・休憩                        |                       | 12:00 | 昼食・休憩                            |                       |
| 13:00 | 実践例の発表（午前の続き）                |                       | 13:00 | 模擬授業（午前の続き）                      |                       |
| 15:00 | 発表についての研究協議                  |                       | 14:45 | 研究協議・指導助言                        |                       |
| 16:15 | 指導助言                         |                       | 15:30 | 全体会・閉会行事                         |                       |
| 18:30 | 夕食・意見交換会                     |                       |       |                                  |                       |
- 9 参加申込 A4版用紙に、①氏名 ②性別 ③教職経験年数 ④所属学校名 ⑤応募の目的 を記入して、(一財)山口県教育会へFAX送信 (FAX 083-922-5768) する。  
 \* 応募用紙の様式は、(一財)山口県教育会のホームページからダウンロード可能。  
 \* 申込多数の場合は、主催者が「⑤応募の目的」を比較検討して決定する。
- 10 申込締切 令和2年6月12日(金)
- 11 問合先 (一財)山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL)083-922-0383 (FAX)083-922-5768

# 第72回 日本連合教育会研究大会香川大会

- 1 大会主題 不透明な時代にあって、自らが輝き未来を創造する日本人の育成
- 2 主 催 日本連合教育会 (公社)香川県教育会
- 3 期 日 令和2年8月20日(木)～21日(金)
- 4 会 場 サンポートホール高松〔高松市サンポート2番1号 (TEL)087-825-5000〕
- 5 大会日程
- | 9:00     | 9:40 | 10:30 | 11:40 | 12:10   | 13:30 | 16:30 |
|----------|------|-------|-------|---------|-------|-------|
| 8月21日(金) | 開会式  | 全体会   | 記念講演  | アトラクション | 移動昼食  | 分科会   |
- 記念講演 演題「輝く未来を創る力、好奇心を育む～宇宙物理学者からのメッセージ～」  
 講師 佐藤 勝彦 氏 (日本学術振興会 学術システム研究センター所長  
 高松市こども未来館名誉館長 宇宙物理学者)  
 アトラクション 香川県立琴平高等学校 郷土芸能同好会  
 分科会 ②学習指導 ③道徳教育 ④生徒指導 ⑤特別支援教育 ⑥人権教育 ⑦外国語教育  
 ⑧幼児教育 ⑨幼稚園・小学校・中学校の連携 ⑩学校・家庭・地域の連携
- 6 参加日程 (全行程貸切バス移動)
- 8月20日(木) 新下関駅前→山口県教育会館→〔瀬戸大橋〕→香川県内視察研修→高松市宿泊施設
- 8月21日(金) 宿泊施設→〔大会参加〕→大会会場→〔瀬戸大橋〕→山口県教育会館→新下関駅前
- 7 参加経費 自宅から新下関駅前・教育会館までの往復交通費と飲食費を除いて、その他の交通費、参加費、宿泊費等の必要経費は(一財)山口県教育会が負担する。  
 \*上記以外の出発地については、個別に担当者と相談する。
- 8 参加募集 40人
- 9 参加申込 (一財)山口県教育会へ、電話 (TEL 083-922-0383) で参加申込を行う。  
 \*申込者多数の場合は、初めて参加される人を優先して参加者を決定する。
- 10 申込締切 令和2年6月5日(金)
- 11 問合先 (一財)山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL)083-922-0383 (FAX)083-922-5768